

盛岡城小噺

第16話

#鷹買いの隠し事

織田信長や豊臣秀吉が台頭した時代から、北奥羽は名鷹の産地として知られ、後の盛岡藩となる地にも、鷹買いの商人が度々出入りしていました。

その頃、鷹は羽も矢羽根として用いられたため、高級な贈答品として扱われており、鷹買いは各地の有力者のもとを訪れる機会が多くありました。小説や時代劇などでは、商人が密偵として暗躍する姿が描かれることがありますが、この鷹買いの他にも、織田信長や豊臣秀吉、徳川家康など、かつての時の権力者たちの信任を次々と得て、彼らのもとで隠密的役割を担っていたとされる、田中清六(清蔵)という商人がいます。

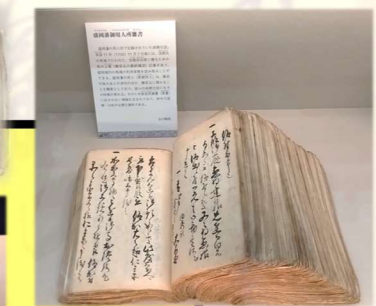
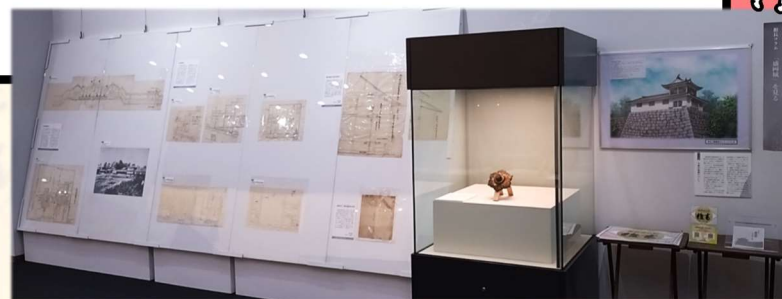
清六は、地方と中央を往来しながら様々な情報を収集し中央政権へ伝える一方、中央の情勢を地方に伝え、中央政権との橋渡しの役割も果たしていたとされます。実は、盛岡藩の初代藩主となる南部信直とも深い関わりがあり、信直が秀吉との関係を築く際には、清六から、秀吉の信頼が厚い前田利家を通じて接触を図るよう進言があったという記録も残されています。その後の清六の活躍もあり、豊臣政権の一大名として認められた信直は、盛岡城築城に着手していきます。

かつて、武力が大きくものを言ったこの時代でも、情報は世を生き抜くための重要な術となり、信直が豊臣政権との絆を強め、その権力を確立していく過程において、清六は必要不可欠な存在でありました。能ある鷹が爪を隠すように、本来の商売をも一つのツールとして、様々な情報を司る才能を隠し持っていた清六は、現代社会においても、優秀なキャリアを築いたに違いありません。

盛岡城復元調査推進室の取組の詳細は、市ホームページに掲載しています。
盛岡城に由来があると伝わる資料や建物等に関する情報などありましたら、盛岡城復元調査推進室(019-613-7956)まで、情報提供をお願いします。



今年には盛岡城の建物が取り壊されてから150年目にあたり、もりおが歴史文化館では「城の跡」と題した企画展が行われています。そして、その一角にある盛岡城復元調査推進室の展示エリアでは、これまでの調査で確認した資料の一部を初めて実物展示しています。今回は、その企画展の様子をほんの少しだけお届けします！



展示では、様々な形で現存する史資料が「描かれた盛岡城」「記された盛岡城」「残された盛岡城」として整理されています。「描かれた盛岡城」では、複数の絵図の中に天守の姿が見て取れるのですが、全く同じものは存在しません。その中の一つが、こちらの、どの資料の天守なのか、現地で探してみてください。推進室のエリアにある展示物は全て個人蔵のため、ここでしか見ることができない必見の資料です！会場には、これまでの「盛岡城日記雑書」やオリジナルのパズル、ガイドマップなどもあり、いろいろな角度から盛岡城を楽しむことができます。

